２０２０．８．９
畑　啓之

爆弾 17000 発に「姫路城」は燃えなかった　これは確率的には偶然である

米軍は姫路城を爆撃のターゲットから外した。従って、姫路城は燃えずに済んだ。このような話もある。また、空襲の後で天守閣に登ってみるとそこには 2 発の不発焼夷弾があり、危いところで難を逃れたとの話もある。

そして、本日の神戸新聞の記事からすると、姫路城が燃えずに済んだのは奇跡に近い。焼夷弾が着弾する確率円の半径は 1.2km、この円の中に 50%の焼夷弾が着弾する。姫路城全体がこの円の中に入っているので、着弾しなかったのは奇跡といってよいだろう。あるいは、上で示したように、着弾したにもかかわらず発火に至らなかったのは奇跡といってよいだろう。あるいは、パイロットたちの腕が上がり、ほとんどの焼夷弾はピンポイントで標的座標に落ちたということもありえるのだろうか？？

Wikipedia 中で、投下された焼夷弾の量を数に換算しておいた。

姫路空襲（Wikipedia）
　大東亜戦争末期の 1945 年 6 月 22 日と 7 月 3 日深夜から 7 月 4 日未明にかけて兵庫県姫路市が受けた 2 度の空襲のこと。

空襲から守るために黒い網を掛けられた姫路城

1945 年 6 月 22 日午前 9 時 46 分から同 10 時 37 分（日本時間）
B-29 爆撃機数　52 機
投下した焼夷弾の種類、量
AN-M64 350.7 米トン　　500 ポンド爆弾　約 1550 発
http://harringtonmuseum.org.uk/an-m64/
計 350.7 米トン　　約 1550 発

1945 年 7 月 3 日 16 時 23 分（日本時間）
B-29 爆撃機数　106 機
約 2 時間、姫路市街地全域に焼夷弾が降り注いだ。火の手は姫路駅前から上がり、順次周辺へと拡大、町は火の海と化し、総戸数の 40%が焼失。飾磨でも一部が被災した。
姫路城は天守に命中した焼夷弾が発火せずに焼失を免れ、その姿に勇気づけられた被災者

もいたようである。
投下した焼夷弾の種類、量
E46 546.6 米トン　　115 ポンド爆弾　約 10500 発
https://bulletpicker.com/bomb_-115-lb-chemical_-m70_-m7.html

AN-M47A2 220.5 米トン　45kg 焼夷弾　　約 4900 発
https://hirahaku.jp/web_yomimono/hirareki/hirareki38/
二つめは M47 焼夷爆弾（AN－M47A2）です。これは直径 20cm、長さ 1.2m、重量 45 kgの爆発性の焼夷弾で、鉄製の弾筒内にガソリンにゴム・灰汁・ココナッツ油を混合したゼリー状の油脂約 18 kgを封入し、弾頭に火薬を装填して投下しました。終端速度は 270m/秒で、平塚空襲では 41,706 本投下されました。計 767.1 米トン

合計　　約 15000 発

本日　２０２０年８月９日の姫路城

米軍資料の研究から (上)

全機照準 天守の南850メートル

太平洋戦争末期の1945年7月3日深夜、姫路上空に現れた106機のB29爆撃機は大量の焼夷弾を投下した。市民ら173人が命を落とし、中心市街地が焦土と化す中、姫路城はその雄姿をとどめた。近年、膨大な米軍資料を読み解く作業が市井の研究家らによって進められ、空襲の実態を語る新たな手掛かりも明らかになっている。成果を紹介しながら〝姫路城の奇跡〟にあらためて迫りたい。（小林良多）

爆撃中心点

「姫路空襲の中心点はここ」。現在の二階町通りと大手前通りの交差点辺りです」

7月11日、姫路市本町の日本城郭研究センター。姫路空襲をテーマにしたセミナーの中で一つの事実が明らかになった。

講師を務めたのは「空襲・戦災を記録する会全国連絡会議」の工藤洋三事務局長(70)＝山口県。44年12月に米軍偵察機が撮影した航空写真を写し、そこに小さな丸印で示された「爆撃中心点」を紹介した。姫路城天守からの距離は、南へわずか850㍍ほど。

「攻撃を実行した106機のB29は全てこの一点に照準を合わせた。あえて同じ場所を狙うのは、制御不能な大火を生み、街を確実に焼き尽くすため」。工藤さんはそう説明すると、先の丸印を中心とするもう一つの円に目を移した。

「爆撃には必ず誤差が生じる。実際の着弾は同心円状にばらけ、50％が半径1・2㌔圏内に収まるとの実証を（米軍は）得ていた。45年3月からの大都市空襲を経て、効率的に被害を最大化する焼夷空襲の理論が完成し、姫路でも実行されたのです」

そう言って指し示した「確率誤差円」の中には、姫路城がすっぽりと入っていた。

「確率誤差円」の中に城全域

日本で太平洋戦争に関する米軍資料の研究が始まったのは約50年前だ。東京や大阪、神戸など空襲を受けた都市で市民による取り組みが活発化した。資料を管理する米国立公文書館などを訪ね、資料の原本や写真を探し出してコピーなどを持ち帰る地道な活動が積み重ねられた。

マリアナ諸島を拠点にしたB29部隊の作戦任務報告書には、爆撃中心点を意味する「MPI」の文字とともに6桁の数字が記されていた。長年その意味は謎のままだったが、1990年代にようやく、ある図面の「座標」だと判明した。

爆撃機搭乗員への指示に使われた図面「リト・モザイク」。そこには、縦横それぞれ152目盛りの座標が刻ま

姫路空襲を前に作成された広域版「リト・モザイク」。爆撃中心点の座標を示すため、縦横の各辺に152の目盛りが刻まれている

(郵便物認可)　神戸新聞　2020年

全機照

7月11日、姫路市本町の日本城郭研究センター。姫路空襲をテーマにしたセミナーの中で一つの事実が明らかになった。

講師を務めたのは「空襲・戦災を記録する会全国連絡会議」の工藤洋三事務局長(70)＝山口県。44年12月に米軍偵察機が撮影した航空写真を写し、そこに小さな丸印で示された「爆撃中心点」を紹介した。姫路城天守からの距

青い丸印が爆撃中心点、緑の区域が確率誤差円。「2047」と記された右側の白枠は、1945年6月22日に爆撃された川西航空機姫路製作所。元の図面から周囲を切り取り、一部を色分けした(いずれも国立国会図書館デジタルコレクションより)

「爆撃には必ず誤差が生じる。実際の着弾は同心円状にばらけ、50%が半径1・2キロ圏内に収まるとの実証を(米軍は)得ていた。45年3月からの大都市空襲を経て、効率的に被害を最大化する焼夷空襲の理論が完成し、姫路でも実行されたのです」

そう言って指し示した「確率誤差円」の中には、姫路城がすっぽりと入っていた。

マリアナ諸島を拠点にしたB29部隊の作戦任務報告書には、爆撃中心点を意味する「MPI」の文字とともに6桁の数字が記されていた。長年その意味は謎のままだったが、1990年代にようやく、ある図面の「座標」だと判明した。

爆撃機搭乗員への指示に使われた図面「リト・モザイク」。そこには、縦横それぞれ152目盛りの座標が刻まれている。6桁の数字を3桁ずつに分け、縦と横の座標に当てはめると爆撃中心点が浮かび上がる。

姫路空襲のリト・モザイクは、市街地の拡大版＝(上)＝と広域版＝(右)＝の2枚があった。米軍資料に書かれた座標「113097」は現在のどこに当たるのか。工藤さんが2枚を使って特定したのは今年に入ってからだった。

姫路空襲　1945年に姫路市街地が焼き尽くされた2回の空襲。1回目は6月22日午前で、標的は姫路城東側の川西航空機姫路製作所。約60機のB29爆撃機が376トンの爆弾を落とし、341人が犠牲になった。2度目となった7月3日深夜～4日未明には、市街地へ767トンの焼夷(しょうい)弾を無差別に投下、173人が亡くなった。米軍の「作戦任務報告書」によると、2度の空襲で中心市街地の76.7%が壊滅した。